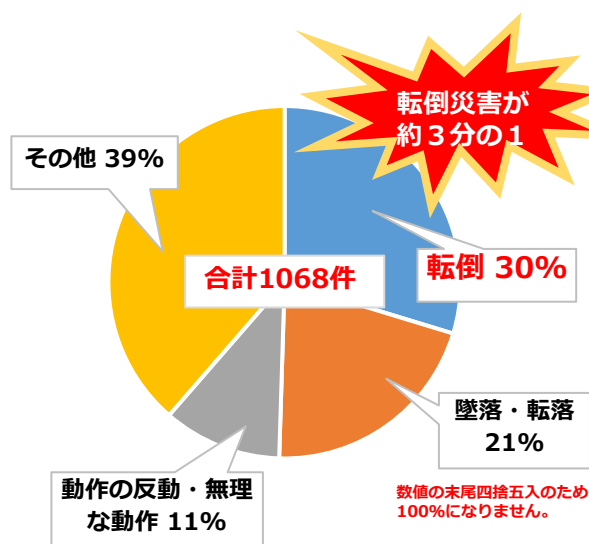


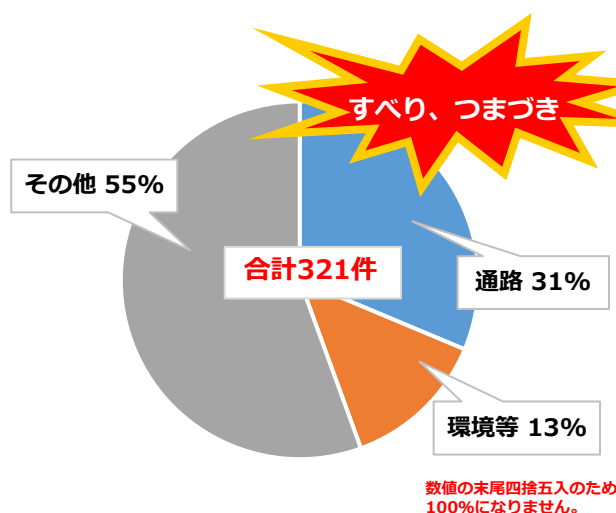
STOP! 冬の転倒災害

- ▶ 鳥取県内における労働災害の約3分の1が転倒災害
- ▶ 転倒災害のうち60歳以上の割合は約5割
- ▶ 転倒災害のうち休業日数30日以上は約6割
- ▶ 冬期（積雪、凍結時）の転倒災害が多い

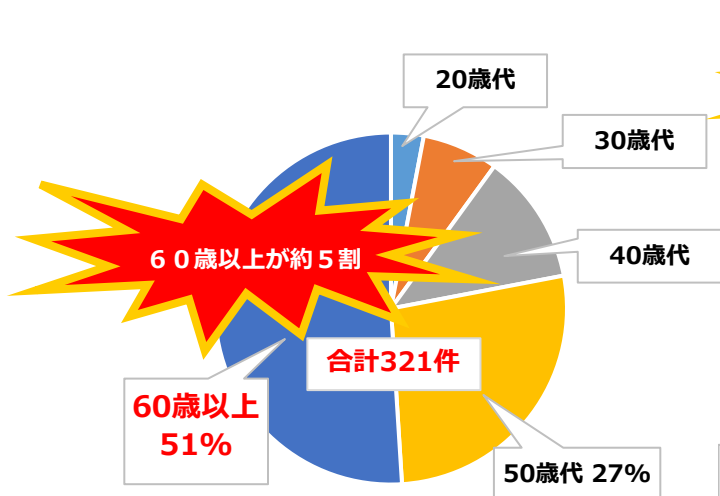
鳥取県内の事故の型別労働災害発生状況
(令和5年、6年)



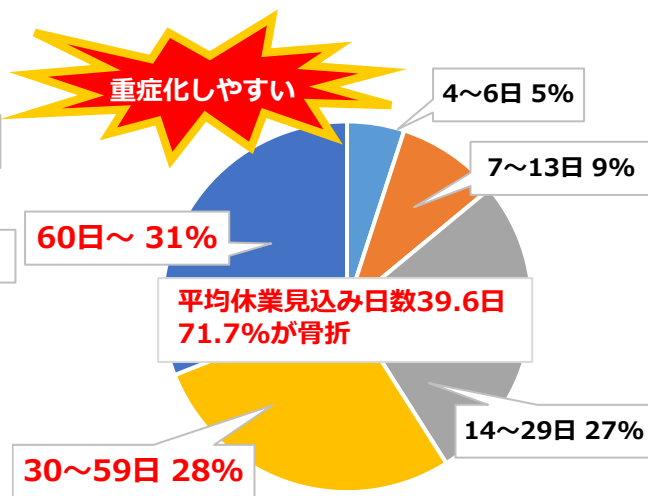
鳥取県内の転倒災害に占める起因物の割合
(令和5年、6年)

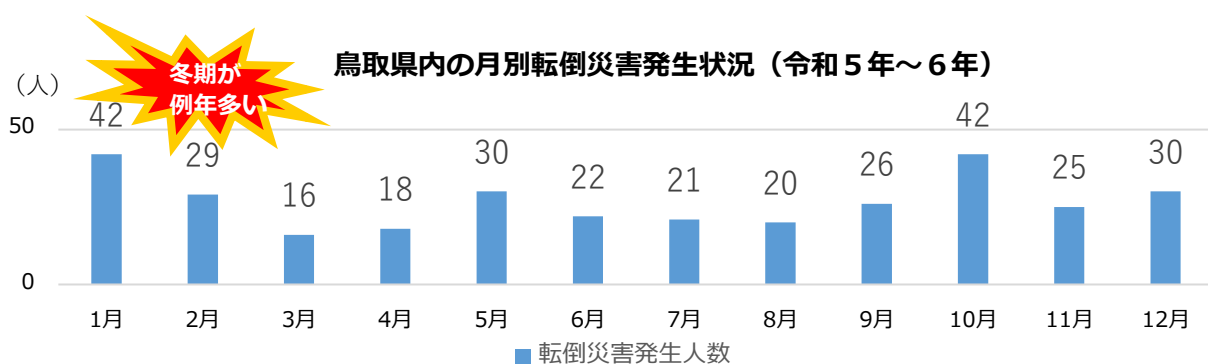


鳥取県内の転倒災害の年代別労働災害発生状況
(令和5年、6年)



鳥取県内の転倒災害における休業見込み日数別労働災害発生状況(令和5年、6年)





冬の転倒災害事例

- ・ 配達のため徒歩で移動中、坂道で凍結路面と気づかず滑って転倒、手首を骨折（小売業、70代女性、2か月休業）
- ・ 施設駐車場を歩行中、積雪で段差が見えず、段差につまずき転倒、足首靱帯損傷（保健衛生業、40代女性、1.5か月休業）
- ・ エレベータ前の床が、靴についた雪が解けて濡れており、滑って転倒、腰・腕等を打撲（サービス業、60代女性、2週間休業）

冬期の転倒災害防止のポイント

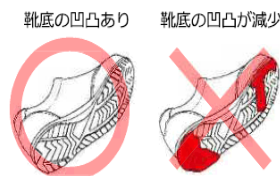
冬期は、降雪、凍結した通路などで転倒し、負傷する労働災害が多く発生していますので、下記の対策を講じて下さい。

◆ 実施体制の整備

- ・ 転倒災害防止の取組を推進する担当者（安全管理者、安全推進者等）を指名すること。

◆ 通路などでの対策

- ・ 降雪した通路は、除雪し、凍結した通路などは融雪剤などを散布し、安全通路の確保を行うこと。
- ・ 滑りにくい靴を使用させること。
- ・ あせることなく急がず、ゆっくりと小さい歩幅で、靴の裏全体をつけて歩行すること。
- ・ 服のポケットなどに手を入れたり、両手に物を持ちながら歩行しないこと。
- ・ 会社内敷地、駐車場などで過去滑った場所、ヒヤリハット情報で得た場所などの職場の「危険マップ」を作成し、労働者に周知すること。



◆ 気象状況の把握など

- ・ 気象情報（積雪、凍結など）を把握し、早めに労働者に周知し、対策を講じること。
- ・ 天候が悪化し、交通機関に遅れなどが予想される場合、休日、勤務時間、出張などの変更を検討すること。
- ・ 警報、注意報などが発表された場合の対応マニュアルを作成し、会社内で周知すること。



◆ 高齢労働者における転倒防止対策

- ・ 身体機能の低下を補填する設備（明るさの確保、滑り止めの設置など）の対策を講じること。
- ・ 柔軟性、筋力を高めるストレッチ、運動などを取り入れ基礎的な体力、生活習慣の改善に取り組むこと。



すべりやすい箇所、段差の箇所などに下記の標識を参考とし、「安全見える化」を行って下さい。



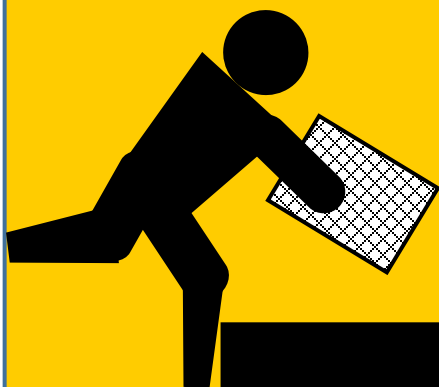
凍結注意



水分・油分注意



雪道すべり注意



段差注意



傾斜注意



ふみはずし注意



ながらスマホ禁止



あせり・急ぎ注意



ポケットに手を入れて歩く禁止

自主点検を行いましょ

転倒災害防止のため、下記のチェックリストで自主点検を行い、改善項目があれば早急に改善して、労働災害防止に努めましょ。

チェック項目

1	転倒災害防止のための取組を推進する担当者（安全推進者等）を指名していますか？	☐
2	積雪、凍結時に転倒のおそれのある場所を認識していますか？	☐
3	除雪用具、融雪剤、転倒防止用マットなどを準備していますか？	☐
4	滑りやすい場所などを危険場所として「安全見える化」していますか？	☐
5	ヒヤリハット情報を活用して、危険マップを作成し、周知していますか？	☐
6	「ながら歩き」や、ポケットに手を入れたまま歩くことなどを禁止していますか？	☐
7	滑りにくい靴や手袋の着用を推奨していますか？	☐
8	降雪、凍結前に、転倒を防止するための教育等を実施していますか？	☐
9	降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起を行う体制を確保していますか？	☐
10	安全に移動できるように十分な照度を確保していますか？	☐
11	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか？	☐
12	時間に余裕をもって歩行、作業を行うよう指示していますか？	☐
13	駐車場の除雪・融雪は万全にして、出入口の凍結などにも注意していますか？	☐